

1. 経歴・狭山市とのかかわり

東京都大森区(現大田区)で5人兄弟の3男として生まれた。新制中学に入学し「演劇部」に入部。多様な才能を結集する「総合芸術」の魅力にとりつかれ、地域で中学時代の仲間と民話劇などに取り組む。51歳の時に所沢市若狭から狭山市に転入し、雑木林の豊かな自然環境の中で30年間を過ごした。



2. 主な業績

37歳、初めての創作民話集『地べたっこさま』で、日本児童文学者協会新人賞、野間児童文芸賞推奨作品などを受賞。素朴で純粋な人間ではなく、保身や裏切りに走る民衆の陰の部分をも描き出し、創作民話の新たな方向性を開拓した。また、民話劇に取り組み、多くの作品を残しており、全国各地で公演されている。実藤氏はこう述べる。九州に講演に行った時に出会った小学4年生の女の子が「いい昔話があるよ」と代表作『おこんじょうり』の絵本を見せてくれた。こうなってこそ民話であり、作家冥利に尽きる出来事だと。

3. 特筆

狭山市民芸術祭の企画公演台本を構成・演出。

第1回 創作ページェント劇「狭山いまむかし(道・土・炎)」

第10回 創作「さやま民話風土記」

作詞した「狭山ふるさと音頭」は、「桜まつり」「狭山市民芸術祭」などで楽しく歌い踊られている。

狭山ふるさと音頭

作詞 さねとうあきら
作曲 砂田弘行
編曲 シモシユ(KYNOX)

一、秩父連山 川面に浮かべ

流れ下って 笹井ダム

豊水 富士見の 橋桁洗い

流れはつきず 入間川

あ、狭山ふるさと 川のまち

二、いざ鎌倉へ 八丁の渡し

武運祈った 八幡神社

駒を進める 坂東武者の

喉をうるおす 七曲井

あ、狭山ふるさと 道のまち

三、奥州道登れば 影隠し地蔵

茶店で一服 団子坂

道も険しや 立ち往生の

車押す手が 向かい(迎え)坂

あ、狭山ふるさと 坂のまち

四、大蛇の潜んだ 智光の森に

狐火燃える お稻荷の森

新田開発 赤坂の森

風をしのいで 大地を守る

あ、狭山ふるさと 森のまち

五、天に願いの 七夕飾り

房も重たや 花火に映えて

秋の野面に 獅子舞の笛

浮かれ囃子の 足踊り

あ、狭山ふるさと 芸どころ

